

態が続いており、噴煙高度は火口縁上 100~200 m で推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。発生した地震の多くが B 型地震で、A 型地震 (P 及び S 相が明瞭な地震) も時々発生した。いずれも震源は硫黄岳山頂火口直下と推定される。振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が時々観測された。

●口永良部島 (30°26'36"N, 130°13'02"E (古岳))

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。発生した地震のほとんどが A 型地震と BL 型地震 (約 2 Hz 付近が卓越し、P 及び S 相が不明瞭な地震) であった。その他にも、BT 型地震 (コーダ部が一様にゆっくりと減衰する地震) が時々発生した。A 型地震の震源は新岳火口直下浅部に求まり、BL 型及び BT 型地震の震源は求まっていないが、新岳火口直下のごく浅い所と推定される。

GPS 連続観測では新岳の膨張傾向は、昨年 12 月以降鈍化しつつも継続している。

遠望カメラ (新岳火口の北西約 3km に設置) による観測では新岳火口周辺の噴気等は観測されなかった。

▲諏訪之瀬島 (29°38'18"N, 129°42'50"E (御岳))

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、7 月 26 日から 30 日にかけて小規模な噴火がたびたび発生し、また、この頃に B 型地震や火山性微動も一時的にやや増加した。そのほか、8 月 31 日にも小規模な噴火が発生した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 加藤幸司)

○教員公募

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員: 助教 1 名
2. 所 属: 地球計測部門
3. 研究分野: 総合測地学

衛星重力ミッション、InSAR、GPS、絶対/相対重力測定などの測地技術を総合的に駆使して、地震・火山活動に関する先端的研究を推進する方を募集します。測地分野での経験は問いませんが、解析や理論展開に高い能力を持つとともに、チームで協力して実施する観測にも積極的に携わる柔軟さが求められます。また、採用後は本学教授・准教授と協力して、大

学院教育にも携わる予定です。

4. 採用予定時期: 決定次第できるだけ早い時期
5. 応募資格: 博士の学位を有する者 (外国での同等の学位を含む)
6. 任期について: 本研究所の教員の任期に関する内規により、満 55 歳を超えることとなる者については、所属する分野の職に任期を定め、その職の任期は 5 年以内とする。再任については本研究所教授会の承認を得た場合は 1 回限り可。(ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない。) また、本公募により雇用された助教は、採用後 10 年を目処に教授会による研究業績等の総合的評価が行われる。

なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。

7. 提出書類: 【提出書類は返却しません】

- (1) 履歴書 (市販用紙可)
- (2) 業績リスト (査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。)
- (3) 主要論文の別刷り 3 編程度 (コピー可)
- (4) 研究業績の概要 (2000 字程度)
- (5) 今後の研究計画 (2000 字程度)
- (6) 応募者について参考意見をうかがえる方 (2 名) の氏名と連絡先と e-mail アドレス

8. 公募締切: 2007 年 10 月 31 日 (水) 必着

9. 問い合わせ先: 東京大学地震研究所附属地震地殻変動観測センター 佐野 修

TEL: (03)-5841-892 FAX: (03)-5841-8265

E-mail: osano@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先:

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム (人事) 宛
封書を用い、表に「総合測地学 助教応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。

11. その他: 応募書類に含まれる個人情報には選考及び採用以外の目的には使用しません。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 10 日送信しました)

○テニュアトラック助教公募

【信州大学大学院】

1. 職名および人員: テニュアトラック助教 1 名
2. 専門分野: 地質学
専門分野のキーワード: フィールド地質学, 山岳科学, 地殻物質科学
3. 応募資格・条件:
 - (1) 博士の学位を取得後 10 年以内の若手研究者

- (2) 英語による十分なコミュニケーション力を有すること
- (3) 外国籍の研究者の場合は、任期終了までに十分な日本語能力を獲得する意欲があること

4. 着任時期: 平成 20 年 4 月 1 日

5. 採用後の条件

職種: テニユアトラック助教 (下記参照)

任期: 2013 年 3 月 31 日まで

給与: 年俸制で約 620 万円を予定しています。

業務: 本公募により採用された教員は、主として研究活動に従事しますが、若干の教育活動にも関わっていただきます。

研究費等: 研究を支援するために 2008 年度は 600 万円程度、次年度以降は 2011 年度まで年間 300 万円程度の研究費支給を予定しています。

ティーチングの経験を積むため、若干の教育活動が求められます。

<テニユアトラックとは>

本公募により採用される教員には 2013 年 3 月までの 5 年の任期が付けられます。この期間は、優れた研究者・教員への準備期間として位置づけられ、専門分野における研究、教育の経験を積みます。4 年後にテニユア審査が行われ、合格後はテニユア教員 (定年 65 歳) に採用されます。テニユア後の職位は原則として准教授です。また、2 年半後の中間評価において特に優れた評価を得た研究者は、任期終了を待たずテニユア付き准教授に採用されることがあります。

6. 応募書類・応募方法:

信州大学ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点のホームページ (<http://www.wakate-shinshu.com/>) にアクセスし、応募申請書の様式を添付書類欄からダウンロードし、記入してください。

7. 応募締切: 2007 年 12 月 10 日 (月曜日) 17 時必着

8. 選考日程: 一次審査 (書類審査) 1 月下旬

二次審査 (面接) 2 月初旬~中旬

9. 照会先

若手研究者支援室 e-mail: wakate@shinshu-u.ac.jp

電話: 0268-21-5597 (直通), FAX: 0268-21-5318

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 21 日送信しました)

○教員の公募について

【大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻】

1. 職種・人員: 大阪大学大学院理学研究科 助教 1 名
2. 所属: 宇宙地球科学専攻 松田 (惑星科学) グループ
3. 専門分野: 同位体惑星科学

松田グループでは、元素の同位体比などを用いた地球や惑星の起源と進化の研究をしています。

今回の公募では、特に希ガス同位体比による研究を中心に行う方を求めています。この分野での経験は問いません。

この研究に対して強い意欲があるとともに、当該分野に関連した研究を積極的に推進する方を募集します。

4. 着任時期: 平成 20 年 4 月 1 日予定

5. 応募資格: 博士の学位を有するか、平成 19 年度中に取得見込みの者

6. 提出書類

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績リスト 原著論文、総説、報告書、著書に区分
- (3) 主要論文の別刷 (コピー可)、3 篇以内 (研究業績リストに○印を付して下さい)
- (4) これまでの研究内容 (A4 用紙 1 枚)
- (5) 着任後の研究・教育に関する抱負 (A4 用紙 1 枚)
- (6) 応募者について照会可能な方 2 名の氏名・所属と連絡先

7. 公募締切: 平成 19 年 12 月 17 日 (月) 必着

8. 書類送付先:

〒560-0043 豊中市待兼山町 1-1

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻

専攻長 中嶋 悟

電話: 06-6850-5799 ファックス: 06-6850-5480

e-mail: satoru@ess.sci.osaka-u.ac.jp

当専攻のホームページ: <http://www.ess.sci.osaka-u.ac.jp/>

9. 問い合わせ先:

大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻

松田准一

電話: 06-6850-5495 ファックス: 06-6850-5541

e-mail: matsuda@ess.sci.osaka-u.ac.jp

封筒に「助教公募書類在中」と朱書し、書留または簡易書留で送付のこと。

提出書類のうち、別刷り以外は全て A4 用紙を使用すること。なお、応募書類は返却しません。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 22 日送信しました)

○教員の公募について

【京都大学防災研究所】

1. 公募人員: 准教授 1 名
2. 所属: 地震・火山研究グループ地震予知研究センター内陸地震研究領域

3. 研究内容等: 内陸地震の発生機構を究明することを目的として、内陸地震発生に関する斬新な観測あるいは解析手法の開発・研究を行い、その成果に基づき地震発生予測手法の高精度化を図る人材を求め、また、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻の教育を担当する予定である。
4. 任用時期: 平成 20 年 4 月 1 日
5. 応募資格: 博士の学位を有するもの
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えることが望まれる。
6. 提出書類: 次の(1)~(6)各一式
(1) 履歴書
(2) 研究業績一覧 (Peer Reviewed Paper およびその他に区分けした論文、著書等の一覧表)
(3) 主要論文別刷 (コピー可) 5 編
(4) 研究業績の概要 (A4 用紙 2 枚以内)
(5) 今後の研究計画及び抱負 (A4 用紙 2 枚以内)
(6) 推薦書または応募者について意見を伺える方 2 名の氏名と連絡先
7. 公募締切: 平成 19 年 12 月 17 日 (月) 必着
8. 書類提出先:
〒611-0011 宇治市五ヶ庄
京都大学防災研究所担当事務室
地震予知研究センター内陸地震研究領域准教授選考委員会 宛
(封筒の表には「教員応募書類在中」と朱書き、郵便の場合は書留にすること)
9. 問い合わせ先:
〒611-0011 宇治市五ヶ庄
京都大学防災研究所担当事務室 気付
地震予知研究センター内陸地震研究領域准教授選考委員会
e-mail: asada@uji.kyoto-u.ac.jp
(封書または E メールに限る)
10. その他: 応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。
<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 22 日送信しました)

○火山災害軽減のための方策に関する国際ワークショップ 2007

主 催: (独)防災科学技術研究所・山梨県環境科学研究所
テーマ: 国内外の“噴火未遂”の事例の比較検証から噴

火予測・予知への方策を議論する

日 時: 平成 19 年 12 月 16 日 (日)
山梨県環境科学研究所 (富士吉田市)
平成 19 年 12 月 18 日 (火)

防災科学技術研究所 (つくば市)

海外招聘者: Jacob Lowenstern (USGS, US)

Herman Patia (RVO, Papua New Guinea)

Giovanni Orsi (INGV-OV, Italy)

問い合わせ先: (独)防災科学技術研究所 藤田

(fujita@bosai.go.jp)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 28 日送信しました)

○アジア・大洋州地球科学会 (AOGS) について

— 第 4 回年会の報告と今後の予定 —

西田篤弘 (AOGS President, 総研大)

斉藤義文 (AOGS Secretary General, 宇宙研)

佐竹健治 (Solid Earth Section President, 産総研)

7 月 31 日から 8 月 4 日にバンコックにおいて第 4 回アジア・大洋州地球科学会が開催されました。約 1200 名が参加し、ほぼ同数の発表がありました。AOGS は、2004 年の第 1 回大会以来、シンガポールで開催してきましたが、今回は初めて他の国で開催し、これまで最大の参加者数となりました。参加者を国別にみると、日本が約 4 分の 1、韓国、中国、タイが約 10% ずつで、アメリカ、台湾、インドと続きます。分野別では、超高層と惑星が全体の 40% を占め、陸水、気象、固体地球、海洋と続きます。地球物理と地質学をカバーする固体地球が相対的に低い数字となっております。過去の大会では、発表を申し込んだのに参加しない、いわゆる no show が多いことが課題でした。今回は、事務局から事前申請を強くお願いすることにより、口頭発表の no show を約 15% まで減らすことができました。

今年の年会中に、次期の役員選挙があり、会長 (今年度は副会長) には韓国ソウル大学の Lee Dong-Kyoo 氏 (気象学) が、事務局長 (今年度は副局長) にはシドニー大学の Iver Cairns 氏 (超高層) が選出されました。各セクションの president も選出されましたが、残念ながら日本からはどなたも入っておりません。現在は、我々 3 名が Council member として会の運営に参加しておりますが、このままでは 2 年後には日本からのメンバーが居なくなってしまう。発表だけでなく、AOGS の運営にも日本から積極的に参加して頂くようお願いいたします。

来年の年会は 6 月 16~20 日に韓国の釜山で開催されます。ソウル大学をはじめとする主要大学や KIGAM (韓

国地質資源研究院)などの国立研究機関から大学院生や若手を含む多くの研究者が参加する予定です。セッション提案はすでに AOGS のウェブサイトですべて受付けております。固体地球分野は他分野に比べて少し低調気味ですので、ぜひ積極的なご参加をお願いしたいと思います。KIGAM では、会議後の巡検なども企画しているようです。なお、講演の申込締切は来年1月24日の予定です。

2009年の年会はシンガポールで開催されます。今後は3年に1回はシンガポールで、それ以外の年はアジアの各地で開催する予定です。

AOGS のウェブサイトは <http://www.asiaoceania.org/> です。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月30日送信しました)

○ 火山学会秋季大会のご案内

11月18日(日)に開催されます秋季大会は、現在講演申込中です。Web 申込および予稿集原稿の受付は8月22日(水)午後4時までとなっています。講演希望者は忘れずにお申し込み下さい。

講演申込 URL

http://wwwsoc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/2007_fallmeeting_application.html

予稿集原稿(PDF ファイル)送信先

E-mail: kazan-taikai@ymail.plala.or.jp

(昨年までとメールアドレスが変わっていますので御注意ください)

詳細は、大会ホームページ

<http://www.sevo.kyushu-u.ac.jp/kazan2007/>

をご覧ください。

島原市内の宿泊施設は、11月17日、18日の宿泊については、インターネットの予約サイトを見ると残室が僅かになっています。また、11月16~17日は島原市で災害情報学会も開催されることや、この時期が修学旅行シーズンでもあることから、早めの予約をお勧めします。

日本火山学会秋季大会実行委員会では、宿泊施設の斡旋は行っていません。宿泊施設に直接、もしくは旅行代理店等を通して予約をしてください。島原市内の宿泊施設については、島原市観光協会のページ

<http://www.shimabaraonsen.com/hotel/hotel.htm>

を御参照ください。(島原市内のホテルからは、会場まで無料のシャトルバスが運行される予定です。)また、車で約40分ほどかかりますが、雲仙温泉街も宿泊が可能です。宿によっては送迎バスも出してもらえます。雲仙観光協会のページ

<http://www.unzen.org/japanese/yado/>

を御参照ください。

また、引続き火山都市国際会議に参加される方は、Dormitory タイプ(国立大学島原共同研修センター等:送迎バス付)であれば、火山学会大会期間中も含めてまだ若干受付は可能です。火山都市国際会議登録事務局 cov5-regi@the-convention.co.jp にお問い合わせ下さい。(その他の宿泊施設については予約を返却しましたので、事務局でも残室数は把握していません。)(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月18日送信しました)

○ 火山学会秋季大会のご案内その2

11月18日に島原市で開催される秋季大会プログラムを <http://www.sevo.kyushu-u.ac.jp/kazan2007/program.html> に公開しました。冊子版は10月末発行予定の「火山」に同封されます。

大会の詳細は、逐次大会ホームページで更新されています。

<http://www.sevo.kyushu-u.ac.jp/kazan2007/index.html> を再度ご確認ください。

会場までの交通手段は、火山都市国際会議のアクセスのページ

<http://www.citiesonvolcanoes5.com/jp/access/index.html> を参考にしてください。長崎空港やJR 諫早駅からの移動の場合、島鉄バスや島原鉄道が利用できますが、11月17日と18日の往路には、火山都市国際会議参加者用のシャトルバス(1,000円を予定)にも火山学会会員は乗車できます。運行時間等詳細については、上記アクセスのページをご覧ください。

ポスターセッションのポスターパネルの大きさが高さ180cm×幅180cmに変更になりました。従来の2倍の広さです。御活用ください。

大会参加者の増加が見込まれることから、大会参加料(予稿集を含む)を値下げしました。当日会場受付でお支払ください。

一般会員: 2,000円 学生会員: 1,500円

非学生会員: 4,000円

予稿集不要な学部学生や高校生等については、参加料不要です。

事前に予稿集の入手を希望する方は、代金引換にてお送りしますので、学会事務局にお申してください(配送料・代引手数料を御負担ください)。なお、印刷所から直送になるため、東京の学会事務局窓口での直接販売はいたしません。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月25日送信しました。なお、冊子版プログラムは52-5号に先

がけて、10月16日、「名簿作成に伴う登録内容確認のお願い」と併せて発送しました)

○アンケート調査への協力依頼

学会員の皆様へ

このたび、文部科学省より地震予知・火山噴火予知次期計画に関するアンケート調査が学会宛にまいりました。

アンケート調査関係の文書は下記のHPをご覧ください。

<http://www.soc.nii.ac.jp/kazan/J/doc/q2007/questionnaire.html>

アンケート調査の趣旨は「依頼文(学会宛)」の文書にあります。これまで地震予知計画、火山噴火予知計画としてそれぞれ独立に建議されてきた予知計画を、平成21年度開始予定の次期計画から地震予知・火山噴火予知研究計画(仮称)として一体化して建議することになったので、学会関係者の意見を伺いたいというものです。

つきましては、所定の様式に従って皆様のご意見をご記入のうえ、件名を「アンケート回答」として学会事務局宛にe-mail添付書類としてお送りください。

(e-mail address: kazan@khaki.eri.u-tokyo.ac.jp)

アンケートへの回答は学会として集約して、文部科学省宛に提出することになっております。依頼文にありますよう、文部科学省への回答締め切りが10月15日ですので、10月10日迄に学会に届いた意見のみを整理の上、文部科学省へ回答いたします。締め切りまでの期間が短くて申し訳ありませんが、よろしく願いいたします。

日本火山学会会長
藤井敏嗣

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月21日送信しました)

○2008年大会のセッションの提案

日本火山学会会員の皆様

2008年5月25日(日)~30日(金)に千葉幕張メッセ国際会議場で開催される日本地球惑星科学連合2008年大会のスペシャルセッションとユニオンセッションの提案がはじまりました。締切は10月25日です。

<http://www.jpgu.org/meeting/program.html>

から提案ができますので、積極的な提案を期待しています。

なお、提案を考えていらっしゃる方は、内容の重複を避けるために、事前に大会担当九州大学の松島理事(mat@sevo.kyushu-u.ac.jp)まで御一報いただくと幸いです。

●スペシャルセッション(Sセッション)

その時々に応じてタイムリーな話題について、分野にとらわれずに議論する場として毎年公募します。類似のRセッションが存在する場合には、その差異が明確になるよう、特長のあるセッション提案をお願いします。

2007年開催のスペシャルセッション

V236 島弧マグマと揮発性物質 篠原宏志

V237 火山の熱水系 江原幸雄

→2008年はレギュラーセッションへ移行

V238 火山爆発のダイナミクス 中村美千彦

●ユニオンセッション

各学会に共通する話題を取り上げるセッションです。連合からの提案のほか、一般からも公募します。講演と議論に十分な時間が取れるようプログラム編成を行います。

なお、レギュラーセッションはすでに決定されており、以下のURLで確認できます。

http://earth.jtbcom.co.jp/submit/session/session_list.asp?Regist_Class=0&ID_No=0

このうち、火山学会が提案母体に入っているレギュラーセッションは以下のとおりです。

●レギュラーセッション(Rセッション)

★活動的火山 青木陽介 共同開催(日本火山学会、日本地震学会、日本測地学会、日本地質学会)

★火山・火成活動とマグマ 及川輝樹 共同開催(日本火山学会、日本地質学会)

★地震・火山等の地殻活動に伴う地圏・大気圏・電離圏電磁現象 長尾年恭

共同開催(地球電磁気・惑星圏学会、地震学会、火山学会、日本大気電気学会)

★火山の熱水系 江原幸雄 共同開催(日本地熱学会・日本火山学会・日本地球化学会)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月3日送信しました)